

# 水稻品種「にじのきらめき」の高品質安定栽培技術 ～玄米品質に優れ、多収～

## 1. はじめに

水稻品種「にじのきらめき」は2022年3月に県水稻奨励品種に採用され県内全域を対象として普及を進めています。特に県中部から北部にかけて「キヌヒカリ」の品質低下が問題となる地域への普及を進めており、令和6年度の栽培は275ha（水稻作付面積の4.8%）で栽培面積は増加しています。そこで、本品種の高品質安定生産のため移植期、施肥管理及び刈取り期について調査したので紹介します。

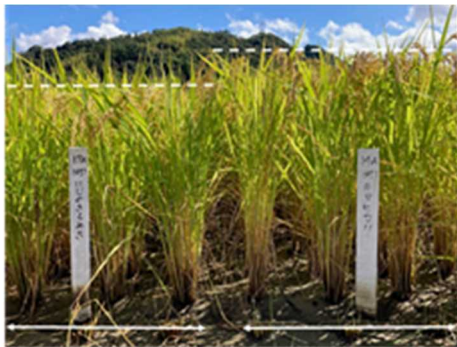


写真1 にじのきらめき(左)キヌヒカリ(右)  
キヌヒカリに比べ短稈で穂数は多い

## 2. 材料および方法

### (1) 移植期について

2022年5月25日、6月8日、6月15日の3時期に移植しました。本田での施肥管理は基肥に塩加磷安284を窒素成分で5.0kg/10a施用し、追肥は尿素入りNK化成2号を幼穂の長さが1mmの頃と10日後にそれぞれ2.5kg合計10kgとしました。

### (2) 施肥量について

本田での施肥量は窒素成分で8kg区（基肥：4kg、追肥1回目：2kg、追肥2回目：2kg）、10kg区（基肥：5kg、追肥1回目：2.5kg、追肥2回目：2.5kg）、12kg区（基肥：6kg、追肥1回目：3kg、追肥2回目：3kg）、の3処理区を設けました。移植は2022年6月8日に行い、耕種概要、使用資材は（1）移植期試験と同様です。

### (3) 追肥時期について

慣行の追肥を出穂25日前と15日前の2回施用とし、慣行より5日早く施用する区、慣行より5日遅く施用する3処理区設けました。移植は2023年6月8日に行い、使用資材、施用量は（1）移植期試験と同様です。

### (4) 刈取り時期と収量・玄米品質について

2024年6月13日に移植した本品種において、出穂後25日目となる9月4日から3～5日間隔で刈取り収量、玄米品質を調査しました。

## 3. 結果

### (1) 移植期について

移植期の早晚による精玄米重の差はほとんどなく、いずれの移植期においても高い収量が得られました。しかし、5月25日移植では乳白粒等の白未熟粒の発生が多く、玄米の整粒率が低下しました。出穂後の気温が高く推移したためと考えられます。いずれの移植期も出穂期から成熟期までの平均気温積算値は概ね1100℃でした（表1）。

表1 移植期が生育および収量、玄米品質に及ぼす影響

移植日	出穂期 (月・日)	成熟期 (月・日)	登熟日数 (日)	精玄米重 (kg/10a)	整粒率 (%)	未熟粒率 (%)	出穂後の平均 気温積算 値(°C)	出穂後20日間 の日平均気温 の平均(°C)
5月25日	7.30	9.5	37	728.2	61.8	31.0	1,106	29.9
6月8日	8.8	9.14	37	726.4	68.8	26.6	1,086	29.4
6月15日	8.11	9.20	40	752.1	68.4	27.2	1,157	28.8

注) 精玄米重、収量構成要素における重量は水分15%換算値。精玄米重は1.8mmで篩い選した数値。

整粒率および未熟粒率等玄米外観品質は穀粒判別器 静岡製機ES-1000により判定。

出穂後平均気温は和歌山地方気象台観測の日平均気温を積算した。

## (2) 施肥量について

施肥量を多くすると生育が旺盛となり精玄米重は多くなりましたが、10kg、12kg 区では同程度でした。また、施肥量を多くすると玄米中のタンパク質含有量が増加し、食味値が低下しました(表2)。

表2 施肥量が生育、玄米収量および食味に及ぼす影響

施肥量	稈長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	精玄米重 (kg/10a)	タンパク質 含有量(%)	食味値 (point)
8kg	72.6	391.4	680.3	6.4	75.2
10kg	72.8	413.5	726.4	6.6	73.5
12kg	76.1	420.9	727.8	6.9	70.3

注)タンパク質含有量、食味値はサタケ社製米粒食味計(RLTA10B)により玄米を測定。

## (3) 追肥時期について

慣行より早く施用すると籾数が増え、精玄米重は多くなりました。玄米タンパク質含有量が低く、食味値は高くなりました。しかし、玄米品質は未熟粒が多く整粒率が低く品質は劣りました。遅く施用すると千粒重が重くなるものの、籾数が少なく精玄米重は少なくなりました。整粒率が高く玄米品質は良いものの、玄米タンパク質含有量が高まり、食味値は低下しました(表3)。

## (4) 刈取り時期と収量・玄米品質について

出穂後 25 日から 29 日(9月2日から9月6日)の刈取りでは千粒重が軽く、精玄米重は少

表3 追肥時期が収量および玄米品質食味に及ぼす影響

追肥時期	精玄米重 (kg/10a)	整粒率 (%)	タンパク質含 有量(%)	食味値 (point)
早い	714.1	51.0	7.3	75.0
慣行	655.6	55.5	7.4	74.8
遅い	639.9	58.0	7.7	72.2

注)タンパク質含有量、食味値はサタケ社製米粒食味計(RLTA10B)により玄米を測定。

なくなりました。また、玄米品質は青未熟粒の割合が高く、整粒率が低くなりました。出穂後 34 日(9月11日)以降の刈取りではこれらの値に大きな変化は見られませんでした。しかし、極端な刈遅れでは玄米品質が劣りました(図1)。

## 4. おわりに

「にじのきらめき」は、玄米品質が安定して良好で、高温耐性に優れます。また、短稈で耐倒伏性が強く、多収な品種です(写真1)。しかし、出穂後の高温、肥培管理、刈遅れによってはこれらの特性が発揮されないことがあります。

玄米品質を考慮すると早期移植は避け出穂後の高温期を回避させた方が良いと考えます。また、施肥管理は食味を考慮すると多肥栽培は避け慣行の窒素成分で10kg程度とし、ある程度籾数を制限したほうが玄米品質向上に繋がります。(栽培部 川村 和史)

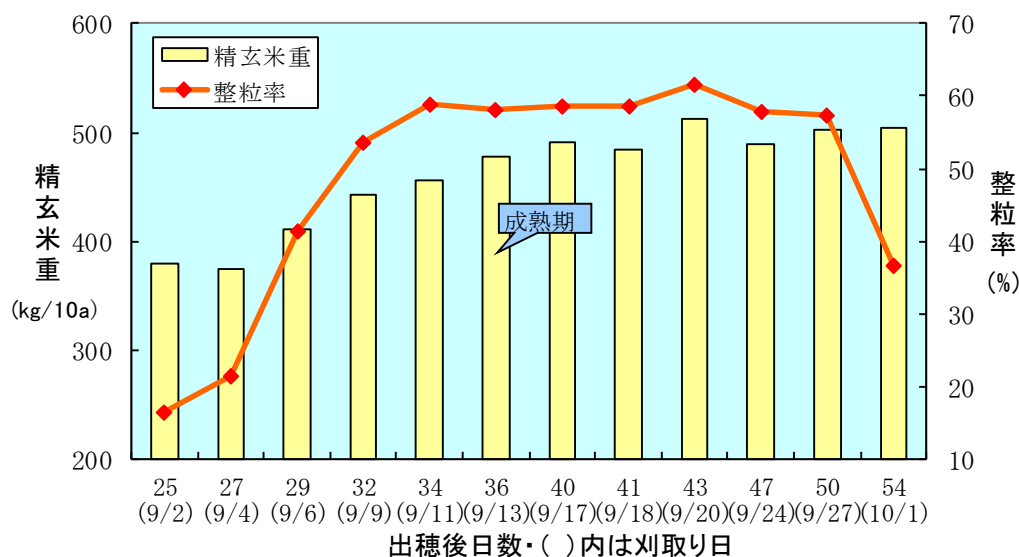


図1 刈取り時期が収量、玄米品質に及ぼす影響

注)出穂期は8月8日、成熟期は9月13日。成熟期は中庸な穂の青籾数が10%程度のとき。整粒率は穀粒判別器(静岡製機ES-1000)により測定。